市政報告
Vol.39

適正な予算執行を！
学習支援等事業の改善提案

川崎市議会議員　矢沢たかお

2月14日から行われている市議会第2回定例会、3月7日の予算審査特別委員会において、①身近なスポーツ施設整備事業②学習支援居場所づくり事業③ごみ収集業務事業をテーマに質問に立ちました。今回はその中から②学習支援居場所づくり事業についてご報告致します。

重要事業の一方で

本事業は、生活困窮者自立支援法を根拠とし、「貧困の連鎖の防止」に向けて、生活保護受給者世帯及びひとり親家庭の子どもたちの高校進学等を支援するため、小学5・6年生及び中学生を対象に実施している事業です。学習の習慣を身につけ、学力の向上を図るほか、安定した学習環境の提供、居場所の提供や相談支援なども同時に実施しており、現代の社会課題へのアプローチとして大変重要な事業であり、さらなる取組の充実が必要です。一方、「適正な予算執行」という観点においては、次のような問題が発生している事を訴え、改善に向けた提案を行いました。

予算額と実績の乖離

本事業の予算は、宮前区2教室を含め、市域全17教室における「人件費」及び「その他経費」で構成されています。総額で年間約1億6千万円の予算を計上、公共施設等を活用し、外部委託で運営されており、性質上「人件費」が殆どを占めています。予算額は、子どもたちの先生「学習サポーター」等の賃金と、想定勤務日数の掛け算で組まれていますが、コロナ禍の令和2年度、3年度は、予算で想定した勤務日数と現場実績に大きな乖離が発生しました。

予算と決算（実績）に乖離が生じても、実績に応じた支払いが行われていれば問題ありませんが、本事業の余剰金については、返還の必要がなく、予算額と実績の乖離に対応した支払方法が取られていない事が調査で分かりました。

適正な予算執行を！

市域全教室の予算額とその実施状況を調査した結果、少なくとも年間約6千万円以上の乖離（令和3年度実績）が発生しており、返還もされていません。今後も継続して実施する事業だからこそ、実績に応じた支払方法となるよう見直しを提言。市は「定員数に応じて積算した配置人数を下回っている状況があると認識している。（中略）委託料については、出席状況によるサポーターの人件費について、人材確保のために必要となる経費を踏まえた支払方法について検討したい」と答弁。適正な予算執行に見直すことで、教室数の拡充等、本事業をさらに充実させることが出来ます。今後の検討結果を注視してまいります。

矢沢たかお
●川崎市宮前区初山生まれ（36歳）
菅生小、菅生中卒／法政大学第二高等学校卒／法政大学情報科学部卒／商社系ＩＴ企業
2019年4月2期目当選
宮前区初山1-20-12
Tel 044-976-2727
矢沢たかお　検索